

	団体名	所在地	事業名	事業概要
1	一般社団法人こどもとねっと	佐賀県鳥栖市	<p>こども宅食から始める「地域資源」×「行政」×「専門機関」による子育て支援事業</p> <p>～非専門職と専門職がそれぞれが持てる力を発揮し合い、行政の支援が届かない「孤立」している子育て世帯とつながり、社会につながる事業～</p>	<p>■こども宅食事業 宅食をきっかけにしたアウトリーチ＝みつめて、つながりを作り、社会につなげる事業 【対象】①「孤立」している家庭 ②つながりはあるが支援が足りない家庭 【活動】虐待やDV、ヤングケアラーなどの家庭は、行政から求められる変化を受け入れることができず行政拒否になってしまいうケースが多い。また、スクールソーシャルワーカー(SSW)などが支援しているが、保護者に精神疾患や知的障害があるなどで養育力が弱い家庭には、寄り添い続けることが必要。「孤立」や「寄り添いが必要」な家庭に定期的に、変化を求めずに食材などを届けることをきっかけに 1) みつける（届ける）：食支援で、生活や気持ちをを楽にする 2) つながる：定期的に会うことで双方向の関係性を作り、孤立と孤独を和らげる 3) つなげる：公的な支援などが受けられるような認知的変化を生み出す 新たにケアーバーや、一時保護、特定妊婦や新生児のいる家庭などと児童養護施設や児相、こども家庭センターとの連携してつながる家庭を増やす</p> <p>■相談機能のあるフードパントリー事業 【対象】③なんとか頑張っていて支援を受けていない孤軍奮闘している家庭 【活動】ひとり親家庭は不登校などのちょっとしたきっかけで状況が悪化することもある。定期的にフードパントリーを利用してもらい、臨床心理士や、苦労を経験した先輩保護者に相談できる機会を提供する。※エリア内3～4箇所</p> <p>■不登校のこどもの居場所事業 基山町：教育委員会と連携し不登校の子どもが参加できる体育を実施 鳥栖市：鳥栖北小学校で、空いた教室で校内フリースクールを実施</p> <p>■ネットワーク作り 非専門職だからできること→行政拒否などの家庭と変化を求めない伴走で、双方向の関係を作る 専門職ができること→専門的・公的な支援 それぞれの強みを活かし「行政」×「専門機関」×「非専門職」のチームを鳥栖・基山で作る。</p>
2	特定非営利活動法人 Dreams Bank	佐賀県鳥栖市	<p>つながる子ども食堂プロジェクト 「鳥栖市にフードバンクを作りたい」</p>	<p>鳥栖市における子ども食堂マップの作成とSNSを活用した情報発信、夏休みと冬休み期間中に子ども食堂と連携し「こども居場所イベント」を開催します。</p> <p>①子ども食堂マップやSNSにより鳥栖市内における子ども食堂の情報を発信することで、これまで利用したくても情報が無く利用の機会がなかった最終受益者の利用増加に繋がります。また、1箇所だけでなく他地域で違うタイミングで開催される子ども食堂を利用する機会を創出します。自分に合った相談者がいる、こどもと仲の良い友達がいる（できた）等、最終受益者にとって最適な居場所としての選択肢の幅を広げることが期待できます。一カ月間での子ども食堂の利用頻度の増加を図ることで、食費負担軽減や抱える困難を相談、解決してくれる相談者との繋がりを後押しします。</p> <p>②夏季休暇、冬季休暇期間中に開催される「子ども食堂」に「こども見守りイベント」を実施します。 鳥栖市内の子ども食堂団体と連携して夏季7日間、冬季3日間のイベントを開催します。子どもの長期休暇期間においては周囲に頼れる人がいないため働きたいけど働けない、仕事と子育てに追われ心身ともに疲弊している、そんなひとり親家庭の課題を解決します。</p> <p>③フードバンク拠点の段階的な修繕を実施し、こどもの居場所として提供する。 団体毎に拠点とする「まちセンや公民館」がありますが、他利用者との兼ね合い等様々な理由で定期利用できない、開催頻度が増やせない課題があります。 当団体のフードバンク拠点に、トイレ設置、老朽箇所の修繕（雨漏り、食材管理品質強化等）を実施し、衛生面・機能面・利便性の改善を図ることで、子どもの居場所等として活用できる拠点にします。 子ども食堂の情報だけでなく、市民団体いろいろ、ゲッドネバ-ズジャパンをはじめとする支援情報や団体の情報発信で繋ぐことで、最終受益者の課題解決に取組みます。</p>

3	学ぶ遊び研究所 ロータスクラブ	福岡県久留米市	不登校という困難を抱える児童・生徒・家庭を取り残さない仕組み作りのために	<p>「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策」文部科学省COCOLOプランに基づき1. オルタナティブフリースクール「COCOLO」の運営事業を令和6年5月3日にスタートした。フリースクールの社会的イメージは子どもの居場所としての側面が強く、学舎のとしての受け止めは薄いという課題がある。そこで、よりQOL（生活の質）の高いフリースクール「COCOLO」として運営するために、個人の尊厳を全面に出した教育支援のあり方を研究協議する教育支援チーム（協議会）を立ち上げた。そこでは、QOLの高さを追究していく幅広い分野の専門家として、心理学専攻の大学教員、民生委員・児童委員経験者、自治会長、福祉施設経営者、精神福祉士、社会福祉士、教職経験者等多様なメンバーを参集・雇用し、質の高い多様な教育支援をめざした提案を行い、フリースクール「COCOLO」で実践していきたい。また、フリースクールの社会的存在価値を高め、家庭への情報提供や家庭介入が適切に広範囲で行なえるようにするために、福祉的アウトリーチの手段を取りいれていきたい。さらに、地域と連携しフリーマーケット、ガレージセールや高齢者施設でのボランティア活動等の交流事業、農園活動や職業体験等も企画し、それらを通して不登校児の社会的コミュニケーションの力を育み、その子らの将来像を支えていきたい。教育支援協議会では不登校児童・生徒や保護者の不安や悩み、困難さに耳を傾け、不登校の要因や学びの状況を分析・把握しエビデンスに基づきケースに応じた対応をしていきたい。また、保護者交流会や給食支援を行い食育等も行い生活支援していきたい。それらを発信することで、社会的インパクトをより高めていくための情報発信やホームページの作成等を行ってきたい。</p>
4	一般財団法人 ウェルネスサポートLab	福岡県福岡市	<p>かかりつけナースと家事の家庭教師の健康支援による子育て世帯の主体でしなやかなつながりづくり</p> <p>～子育て世帯の健康的な暮らしを支える仕組みづくり～</p>	<p>日本全体で少子高齢化の課題解決のための働き手確保に向けて女性の就労が注目されるなか、子育て世帯では核家族化からくる無償ケア労働（家事・育児・介護等）の負荷が一要因となり、睡眠障害や産後・育児鬱、女性特有の健康課題等々、様々な不調症状を複数かつ長期にわたって抱えており、子育て世帯の身心の健康度が低下し、「健康的な身心で子育てや働くこと」「健康的な暮らしを営むこと」が困難な状況にある。これらに対し福岡県内で核家族化が進む地方中枢都市、中核都市である福岡市と久留米市に在住する子育て世帯（妊娠期含む）を対象に、子育て世帯が身心ともに健康的（課題に対して人と協力して取り組むことができる状態）になることで、主体に必要な情報やサービス（有料・無料不問）につながる状態を目的とし、かかりつけナースチャットサポートによる「専門家とつながる」事業、家庭内家事人材の育成による「生活圏内の住民とつながる」事業、データベースの整備による「情報とつながる」事業、生活圏内の企業や行政への啓発による「社会とつながる」事業を行うものとする。そのことにより本事業の受益者だけでなく当該地区の子育て世帯がウェルサポを「かかりつけナース」として認知し、一人で不安不調を抱え込むことなく、安心して健康的な暮らしを営むことができると考える。また、これまでの知見を考慮し、事業内で十分な効果を得るためにポピュレーションアプローチ（多くの人々が少しずつリスクを軽減することで、集団全体としては多大な恩恵をもたらす事に注目し、集団全体をよい方向にシフトさせること、健康増進や疾病予防に寄与しうる利点がある）の手法で積極的なアウトリーチ方式で行うものとする。なお、本事業終了後は寄付による自己資金の獲得のほか、行政とともに実施していくことも見据えて、本事業内で通常枠事業採択団体と連携し、その際の課題抽出なども行う予定である。</p>

5	認定NPO法人 フローレンス	東京都千代田区	AI&専門職によるSNS子育て相談とこども食堂・こども宅食を活用したアウトリーチ	<p>【概要】 本事業は、デジタル（AI・専門職）と対面支援（こども食堂・宅食）のメリットを活かし、受益者と緩やかに繋がり続け、困難を抱える家庭の支援へのアクセシビリティを保障することを目的とする。 貴財団が目指す3つの項目を網羅し、特に課題が重篤化する前にデジタル・対面双方で受益者に『アウトリーチ』することに重点を置く。</p> <p>【期待する効果】 ①イベント・居場所：デジタル支援からこども食堂等の対面支援につなぐことにより、子育て家庭が地域の支援にアクセスできる仕組みが構築される ②アウトリーチ：SNS上で保護者に伴走することで、様々な事情で自宅から出ることが難しい家庭へのデジタルによるアウトリーチが可能となり、「こども宅食」による家庭訪問で対面のアウトリーチにもつなげる ③情報：SNS上で支援・イベント等の情報配信を行い、社会資源の認知度の向上、制度利用、地域のイベント参加を促す</p> <p>【本事業の強み】 ガバナンス・コンプライアンス：休眠預金活用事業の会計・報告経験のある弊会経理部門が責任を持って対応する 事業の妥当性：本申請書の項目IIIに記載した困難を抱える家庭が支援を受ける際に直面する障壁に対する解決策として、デジタル・対面支援双方が連携した支援が有効であると考え 実行可能性：事業実行に向けて、コンソーシアム団体と準備を進めている 継続性：福岡市に支社を設立し、受益者を増加させることを想定している 先駆性（革新性）・波及効果：AIと人が協働で子育て支援を行う本事業は、全国的にも先駆的な取り組みであり、AIを活用することにより相談への心理的ハードルの低減、24時間365日対応の実現などにつながり、産前産後期以外の家庭、他自治体等への波及効果が見込まれる 連携・対話：筑後川関連地域で活動する団体とコンソーシアムを組成し、自治体や地域団体と連携・対話をしながら事業を展開する</p>
6	認定特定非営利活動法人 ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金	神奈川県横浜市	子どもの希望・エスペランサプロジェクト～子どもがありのままでいられる多様な居場所づくりを通して～ 福岡で子どもたちの未来を紡ぐ	<p>本基金で子どもの居場所事業を運営していく中、不登校やヤングケアラー、外国につながる子どもたち、経済・社会的課題を抱えた子どもたち、経済的には恵まれていても家庭や学校に居場所がないと感じる子どもたちがいることが明らかになった。本事業では、これまで弊団体が行ってきた「イベント・居場所」の定着を目指す。①定期イベントの開催（月1回）②子どもの居場所としての学習支援、③子どもの夜の居場所、④子どものためのおむすびの居場所の4つを主な活動として、子どものための空間と食事を提供することで、子どもたちが駄菓子屋をひとつの居場所として集い、孤立することなく安心して放課後の時間を過ごし、最終的に子育てに少なからず困難を抱える幅広い世帯への多角的支援を目指す。</p> <p>①多文化共生・国際理解教育・子育て支援等のイベント開催：月に1回 ②学習支援：月曜日から金曜日の週5日、駄菓子屋の営業時間中に学習スペースを設け、子どもが購入した駄菓子を食べながら学校の宿題や自己学習を行うことを支援する。 ③夜の居場所：週に1～2日は、駄菓子屋閉店後の19～21時に子どもたちへ食事と居場所の提供、傾聴（オンライン含む）を行い、受援力の低い子どもたちに対して孤独や孤立のない状態を作っていく。 ④おむすびの居場所：週に1日（水曜日）は、地域のおむすび屋と連携し、子どもたちへおむすびとお味噌汁の無料提供を行い、これまで閉店後に居場所をなくしていた子どもたちに対して居場所と軽食を届ける。</p>

7	株式会社オヤモコモ	佐賀県佐賀市	<p>産後のセーフティネット構築プロジェクト「みてるよ」</p> <p>オンラインとオフラインを活用で、アクセシビリティの改善</p>	<p>出産からこどもが1歳になる頃までの期間、特にはじめての子育て、実家など周りに頼れる人がいないケースや過去にうつ病などの精神疾患の既往歴がある場合など、産後の育児不安が膨らみやすく、産後うつやネグレクトなどの状況に陥りやすいことが考えられます。</p> <p>産後うつは誰もなり得ることを心得て、地域でセーフティネットを構築していくことで未然に防ぐことや悪化する前の対策など出来ることがあると考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、オンライン双方向型情報サービス「みてるよ」の運用。 2、孤立を防ぐための交流イベント実施 3、自団体の発信をしながら、必要な人にちくご川エリアで活動中の関連する活動内容を把握し、情報を届ける 4、この活動の意義や実施内容、成果を広く伝える取り組みと産後うつの啓発活動
8	特定非営利活動法人舞台アート工房・劇列車	福岡県久留米市	パベットシアターPROJECT II	<p>弊団体は、困難を抱えたこども・保護者への文化体験支援（演劇・人形劇を通じての支援）を、連携団体と連携して2020年度より実施してきた。そこで抱える困難は違っても共通する課題があることがわかってきた。それは社会的孤立という課題である。社会とのつながりが薄い親子ほど、レジリエンス（精神的回復力）が低い状態におかれ、支援の外側におかれていることが多い。本事業は、そのような支援の外側にいる孤立した親子に文化体験機会を提供することで、レジリエンス形成につながる文化体験支援プログラムで心を支援する事業であり、支援へのアクセシビリティを重視してとりくむ。</p> <p>心のレジリエンス形成には、深い自己内対話が生まれる観劇体験は有効である。また観劇後に参加者同士の「対話」の場をもつことで、自己内対話はより深まる。さらに自ら実際に創作してみるワークショップ体験も、他者との交流を自然に生み出す。そのような演劇（人形劇）のもつ力を活用して、本事業では困難を抱える親子の心を支援する。</p> <p>具体的には、困難を抱えた親子に対して、弊団体の演劇（人形劇）観劇と対話の体験、ワークショップ体験を実施する計4回のプログラムを提供する。本事業の留意点として、（1）経済的・心理的参加障壁を可能な限り低減する。（2）支援のアクセシビリティを確保するために、フードバンクくるめと連携して会場に食材・日用品支援コーナーを設ける。（3）個人の抱える個別相談があった場合に対応できるように、さぼちゃん、ボナビティと連携して対応できる体制をつくる。なお、この分野の連携団体はまだ広げる。</p> <p>対象者への参加呼びかけは、（4）本事業連携団体であるフードバンクくるめ、ボナビティ、さぼちゃん等を通じて、（5）他事業の連携団体であるわたしと僕のゆめ、未来学舎等を通じて、（6）他のCSOや久留米市子ども未来部などを通じて行い、SNSも活用する。</p>

9	ちくご地域ユースサポート不登校支援部会	福岡県筑後市	不登校・ひきこもり当事者と家族がりのままで生きていけるコミュニティ構築事業	<p>不登校ひきこもりの子どもを抱える家族を丸ごと支える。当事者として伴走することで孤立化を防ぐ。</p> <p>当会は2019年より、不登校の家族への居場所事業を展開している。令和3年度における福岡県内の公立小中学校の不登校児童生徒数は12,069人で、小学校4,359人、中学生7,710人となっている。公立小・中学校1,000人あたりの不登校児童生徒数は、全国を上回るペースで増加している。</p> <p>また、NPO法人「登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク」が2022年に不登校を持つ保護者を対象に実施したアンケートでは、不登校をきっかけに収入が減った世帯が33.6%、そのうち2.6%は収入がほぼゼロになったと回答。ひとり親世帯で子どもが小さいと働けなくなる事態もおこっている。それと共に、コロナ禍における経済的影響は、生活困窮世帯に多大な影響を及ぼしている。</p> <p>そのため2023年より「ちくご子どもフードサポートネットワーク」として、地元の高校・大学生ボランティアや主任児童委員有志らと共に不登校ひきこもりの子どもがいる世帯などにフードサポート、お譲り服の配布、生活雑貨の無償配布を行っている。</p> <p>利用者のニーズが高い、通信制・定時制高校の説明会を2000年から八女市や筑後市で開催。大変好評なため、2023年からは久留米市が主催事業として開催している。今年度も筑後市で進路説明会を開催する。開催にあたっては、利用者の中高生がボランティアとして高校紹介等に協力しており、社会体験の機会にもなっている。</p> <p>未就学児から18歳以上まで幅広い利用者層のニーズに応じて、興味を持てる遊びや体験、就労体験を通じて社会とつながれる機会を創出する。また、子どもに寄り添う保護者を精神的に支える活動を行う。</p>
10	特定非営利活動法人ソシオの杜	佐賀神埼郡吉野ヶ里町	ソシオエステで困難を抱える人達を笑顔にする事業 ～身体のケアを通して心の澗を吐き出そう～	<p>貴団体の公募要領にありましたように、「保護者が日々の生活に追われ、余裕がない」「周囲の無理解による孤立」という現状は私達が今まで関わった方々も直面していました。家庭の中（特に親）がピリピリしていたり、心に余裕がない場合、子供たちはかなりの確率で大きなストレスを感じます。そこを少しでも軽減できるよう、ソシオエステティックの提供を行いたいと思います。1回30分の施術ですが、ご自宅に訪問（サロンに来ていただくことも可能）してケアを行います。希望者は何度でも施術を受ける事ができます。私たちは、ソシオエステティックの提供をする時に体を触ります。この体に触れるという行為そのものが癒しとなり、そして自分だけの時間を持っていただくことで、普段はあまり話さない自分の悩みや不安を打ち明けられることがよくあります。このような経験から、8か月間継続して訪問することで信頼関係を築き、課題の収集が出来ると考えます。また、今までの施術を受けられた方がそうだったように「また明日から頑張れる」と前向きになってくださる方が増えます。その中から「手に職をつけたい」「副業をしたい」「人の役に立ちたい」という夢や希望をおもちの方には、ソシオエステティック入門講座を受講していただけます。講座の中では、エステの知識と技術の他にも、自分自身を大切にすること（セルフケアの必要性）、他の人たちとのコミュニケーションの取り方なども学んでいただけます。実習では、ご高齢の方や障がいをお持ちの方に対してケアを行ってもらうことで、人から必要とされることの喜びなども伝えていきます。事業対象者となった方達が自分に自信を持ち、前を向いて生き生きと歩いていける姿を目指します。最終的には、各関係機関と連携して収入を得られる仕組みづくりが出来上がることを望みます。</p>

<p>11</p>	<p>特定非営利活動法人 Teen's学園ドリームズファクトリー</p>	<p>福岡県福岡市</p>	<p>能古島 持続可能な親子の自立支援体験プログラム創出事業 ～観光事業と融合した持続可能な自立支援システム構築～</p>	<p>本事業では、福岡市能古島に、「一二三生活産業 能古島農園昭和村」（仮称）という社会課題解決の為の拠点を作ります。具体的には、本事業でこの拠点開発を行い（場所は確保済み）、プログラムを実証することによって、最適な運営スタイルを決定し、次年度以降の自走化を目指します。この施設では、「生きる為の根幹である『食』（特に日本食）、「そうじや洗濯等普通に生活するために必要な技術と考え方」等、教育機関や国・自治体の政策ではカバーが難しい分野でありながら、現在、習得が困難になっている部分を重点的に体験学習できる場を作ります。提供するプログラムは、下記の2つを予定しています。</p> <p>①「子どもに必要な生活体験」や「生活に必要な学び（食、そうじ、生活習慣等）」を与えたくても与えられない家庭への体験プログラム提供</p> <p>1日自然・生活学習体験プログラム：保護者は、こどもを「能古島行きフェリー乗船場」（姪浜）で、乗船まで見送り。フェリー到着後施設スタッフが迎え。島内施設にて自然・生活体験後、スタッフが船に乗船させ見送り。保護者はフェリー乗船場で子どもを迎えます。これによって、主にひとり親家庭を対象とした、親のストレスを軽減するとともに、子どもにも自然体験・制月習慣学習の場を提供します。</p> <p>②「食と生活」を学プログラムを実施（全12回）</p> <p>当団体が最大の課題と感じる「食の乱れ」「生活習慣（そうじや洗濯等の基本的な生活技術・習慣）乱れ」を正す為に、全12回のカリキュラム型の「学びのプログラム」を開設（各180分/1回）。「親」及び「子ども」を対象に募集。本事業では、モニタ実証として24名を受け入れ。これによって、真の意味で「自立」を促進します。観光業によるマネタライズ化に取り組み、次年度以降の事業の持続化を目指します。また、将来的に保護観察中の青少年への働く場の提供等、複合的な課題を解決する場にします。</p>
<p>12</p>	<p>一般社団法人KATARU</p>	<p>福岡県筑後市</p>	<p>民設民営図書館をプラットフォームとした「ちっごこどもまんなかプロジェクト」 ～子どもと大人が地域で出会い、学ぶ機会を持てる仕組みづくり～</p>	<p>当法人は3つの事業を柱として子育て支援を行っていきます。</p> <p>①居場所事業：民設民営の図書館をプラットフォームとして支援が必要な家庭が第三者と関わる機会の提供し、課題の早期発見・対応を地域とともに行う。</p> <p>②ユースセンター事業（新規）：子ども若者が学校や家庭以外で活動できる場を提供し、交流や活動を通して自己実現できる機会を提供していく。学校でも家でもない第三の居場所を福岡県筑後市中心部に子どもたちと一緒に創っていく。そのプロセスを通して、放課後や休日などの時間に子どもがロールモデルとなる様々な人と出会い、対話し、学び合える機会を作る。</p> <p>③コミュニティづくり事業：子どもを支える大人を増やするために、本棚オーナーやサポート会員などによるセミナーやイベントを通して子どもの置かれている現状を知る機会、関わる機会を創っていく。また、オンラインプラットフォーム（公式LINEやDiscord）などを活用し、アクセスしやすい仕組みづくりを行っていく。</p> <p>そのような場があることで、少しでも生きづらさを抱える子どもが未来に向かって希望を持てる地域へと変化していくコミュニティづくりを行う。</p> <p>民設民営の図書館という安心・安全な「プラットフォーム」を通じて、一人でも多くの子どもに、持っている「力」を一緒に探していく伴走を地域と共に行う。</p> <p>一方で私たちの法人だけで関われる範囲には限界があるため、地域の団体や企業とも協働での活動を行っていく。</p>

13	一般社団法人 隣友の会	佐賀県佐賀市	課題や困窮を抱える子育て世帯の緊急支援 共に支え合い安心できる居場所づくり	学校やこども園・行政と連携しての居場所の開設とフードパントリーを開催しより多くの経済的困窮や他の困難を抱える主にひとり親世帯につながり、定期的に食品や生活用品をお届けすると共に、社会的孤立、孤独を防ぎ食育も兼ねた親子食堂やヒヤリングカフェ会等をして信頼関係の構築を目指す。ご家庭が抱える困難事を把握し軽減、解消の為に他団体や行政につなげる。また、不登校・ひきこもり等の悩みを持つご家庭も多いことから、子どもも保護者もの安心して通うことのできる居場所を提供し、空腹を満たし、身体を休めると共に、学びの場と学びの場(無料塾)の開設 地域の学校、関係機関、企業、協力者と連携して地域の子どもや若者を地域で育てるといふ思いと地域を超えて未来に希望を持って生きる子どもを育てるといふ思いを共有した活動をする。
----	-------------	--------	--	---

※申請順